

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和6年度分)

<県の評価等>

施設所管部名: 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重びよクエの森(三重県民の森) (三重郡菰野町大字千草字西貝石 7181-3)
指定管理者の名称等	NPO法人 ECCOM 理事長 森 豊 (三重郡菰野町小島 4059)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 県民の森の森林、植物等の管理に関する業務 2 県民の森の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 県民の森の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他県民の森の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R5	R6	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。 また、枯損木の処理や外来植物の除去、間伐の実施など、森林環境の適正な管理に努めている。
2 施設の利用状況	B	A			年間施設利用者数は 164,547 人で、令和5年度実績を上回り、目標達成率は 123.7%となっている。参加者のニーズを反映したイベントの実施等により利用者数の確保に努めている。
3 成果目標及びその実績	B	A			施設利用者の満足度は 91.0%(目標 80%)、自然体験型イベント参加者の満足度は 97.0%(目標 92%)となり、ともに目標を達成している。

※「評価の項目」の県 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

の評価 : 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ol style="list-style-type: none"> ① 成果目標については、全ての指標で目標を達成している。 ② 森林、植栽木、芝生等の植物管理を適正に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適切に実施しており、施設利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。 ③ 施設利用者のために、インターネットによる広報や利用受付を行い、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信するほか、SNS を活用した情報発信を積極的に行っている。 ④ イベントについては、感染症対策を徹底したうえで、観察会等の自然体験型イベントやものづくり、展示会等も含めて、224 回(このうち自然体験型イベントは 139 回)開催しており、自然体験型イベント参加者の満足度は 97.0%と高く、積極的に自然とふれあう場を提供している。 ⑤ 「みえ森林教育ステーション」では、安全・安心な利用に向けた運営に努めている。 ⑥ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等の取組を行っており、生物多様性の保全に努めている。また、桑名高校、四日市西高校の生徒
--------	---

が取り組む「フクロウ保護プロジェクト」にも引き続き協力している。

- ⑦ 業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員を三重県民の森管理事務所に常勤3名、非常勤3名を配置している。また、危機管理に関するマニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を平日・休日ともに整備し、適切に対応している。
- ⑧ 施設利用者のニーズにあった公園管理を適切に実施したことにより、令和6年度においても全ての目標を達成し、森林、環境学習のための施設利用者の増加や、より良いサービスの提供につなげている。今後も引き続き、施設利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。

<指定管理者の評価・報告書(令和6年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①三重県民の森管理事業の実施に関する業務

誰もが日常から気持ちよく来園できるよう、植物管理、施設管理をはじめとした園内管理を徹底するとともに、「三重県民の森」の持つ自然環境を最大限に活用したイベントを実施することにより、公園のPR並びに施設利用者の増加に努め、以下のような事業を行った。

ア) 県民の森の施設及び設備の利用に関する業務

- ・ 園内各施設の団体利用に関しては、窓口での利用申請受付のほか、インターネットによる広報、受付も行い、事前に施設の情報提供や利用案内の提供を行った。また施設利用者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、施設利用者へのサービスに努めた。
- ・ 感染症対策として、園内の利用の多い場所にアルコールを設置し、手指の消毒を励行した。
- ・ 菰野町教育委員会へは、毎週3回、子どもたちへの情操教育の場として園内を提供した。また、「森の風ようちえん」との共催で、2～3歳児とその親を対象とする野外保育事業「小さな森のようちえん」を毎週1回、園内を含むフィールドにて実施した。
- ・ 「みえ森林教育ステーション」では、小さな子を持つ家族でも安全安心に利用できるような運営に努めた。また従来の展示の鑑賞を目的とした施設利用者に混乱がないよう、広報、案内に努めた。

イ) 自然体験型のイベントの実施に関する業務

- ・ 感染症対策を徹底した上で、224回のイベント(このうち自然体験型イベントは139回)を実施した。また、参加者の満足度は全イベントで97.0%、自然体験型イベントでも97.0%となり、令和5年度より若干上回る結果となった。イベントの実施回数は令和5年度より多く行ったが、申込者が多いイベントは出来る限りスタッフに負担がかからない範囲で午前、午後の2回開催出来るように調整した。
- ・ 職員によるイベントを多数実施するとともに、「星空観望会」、「竹細ワークショップ」など、より専門的な知識が必要なイベントは、外部講師や団体と協力して実施した。月一回定例で行った「季節の自然観察会」では、令和5年度と同様に三重県環境学習情報センター、自然観察指導員三重連絡会と共催し、参加者の自然体験だけでなく、自然観察指導員が参加者に自然環境や動植物の説明を行い交流する場を提供することができた。
- ・ 地域の小学校、保育園、幼稚園、学童、福祉団体などの依頼により、クラフト体験や自然観察会などのプログラムを実施した。
- ・ 4年生以上を対象とした自然に触れて学ぶ小学生向けの企画「山猿塾」を令和6年度より開講した。毎月内容を変え、塾生は1年間一生懸命遊び学んだ。3月には卒業式を行い16名の塾生が元気に卒業した。塾生はもとより保護者の方に大好評であった。
- ・ 「森林とふれあう自然公園環境整備事業」により、イベント参加者とともにトンボ池の説明看板を製作設置した。国産のスギを活用し、また園内(生産の森)の間伐材を利用しての作業は森林教育としても好評であった。設置場所は施設利用者の目に触れやすい場所にあり、実際に作業をした子どもたちが再来園した際にも非常に喜んでおり、施設に対する愛着を醸成することができた。

ウ) 県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務

- ・ モバイル端末でも見やすくしたウェブサイトを通じて、より広報力のある情報発信を心掛けるとともに、タイムリーに情報を発信できるSNSを利用し、イベント報告や開花状況、自然の様子などの情報発信を行った。ウェブサイトとSNSをあわせて215回の更新を行った。Facebookでの評価となる「いいね!」の数は1,318件となった。
- ・ CTY-FM「こちら北勢よろづ研究所」での毎月のイベント告知や、子育て情報誌「みえこども新聞」へのコラム掲載、各イベント前のプレスリリースの発行及び記者クラブや各メディア局へのFAX送信など、広報のためにメディアを積極的に利用した。太陽の丘の里山再生事業や、つどいの広場のフウの紅葉などはマスコミに取り上げられ、多くの人を訪れた。

- ・ イベント参加者やウェブサイトからの希望者に対して、イベント情報を中心とするメールマガジンを月1～2回程度配信した。令和6年度は25回配信を行い、登録アドレスは1,876件と増加した。
- ・ 自然学習展示館にて季節の自然の見所を紹介する掲示を行うとともに、ウォーキングマップを2ヶ月ごとに更新し、施設利用者が現地に行って自然を楽しめるよう案内を行った。

②施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・ 植物管理、清掃管理、日常点検、遊具・建物施設などの定期点検、巡回警備、修繕業務などにより、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適正に保持するとともに、異常箇所の早期発見により、施設利用者の安全な利用を図れるよう努めた。
- ・ 植栽木の管理については、適正な時期に剪定を行い良好な景観を維持することができた。
森林内の植生管理については、大径木の枯損木が多くなっているため、危険のないよう早めに伐倒処理を行った。また、植栽木から繁殖し自生の植生を圧迫している外来植物を間引き、森林環境の回復、保全に努めた。ヒノキの森においては、「認定特定非営利活動法人森林の風」に委託して間伐を行い、適正な人工林の維持に努めた。ビオトープのトンボ池周辺は生物多様性の観点から一部草原を残した。つどいの広場の土手も同じく草を残し真冬になるまで待ってから刈り込んだ。
2月の大雪で、園内の常緑樹、特に大きく樹冠を広げていたマテバシイが積雪の影響とその後の強風により、太い枝が数本折れる被害があった。遊歩道から距離のある木であったが、景観保全や安全確保のため、確認次第伐採作業を行った。
- ・ 建設から40年以上を経ているために多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕する必要がある箇所が増加すると思われる。専門的な技術が必要となるアスレチック遊具の修繕については業者委託し、各所の階段や看板など大規模でない修繕は職員で行った。
令和6年度は大きな補修箇所はなかったが、異常気象で危険性が高まっている局地的豪雨による水浸食を少しでも軽減させるため数か所の水みち、土留め作業を行った。
- ・ 今後補修が必要な箇所として、未補修のアスレチック遊具、遊歩道の階段や手すり、藤棚、あさけの流れにかかる橋などがある。老朽化が進んでいるため、危険がないか注視し、必要に応じて供用中止などの措置を行う。
- ・ 一部のアスレチック施設は老朽化により利用禁止としているが、施設利用者から利用再開を望む声を多数いただいている。
また、県貸与備品の廃棄及び修理不能により、効率的に公園管理ができない場合が生じている。
- ・ 資格を持つ職員により有害鳥獣駆除を行い、シカ3頭を駆除した。

③県施策への配慮に関する業務

- ・ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護・調査や外来生物の駆除などを行い、生物多様性が保全された森林公園をめざした。桑名高校、四日市西高校の生物部の生徒が取り組む「フクロウ保護プロジェクト」にも引き続き協力し、園内に設置した巣箱からは3羽のフクロウを巣立たせることができた。既存の保護区にとらわれない柔軟な地域保全を可能にする、生物多様性保全の新たな枠組みである「OECM」外ではあるが、2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際目標である「30by30」の目標達成に向け、今後も微力ながら取り組んでいく。
- ・ 「みえ森林教育ステーション」では県産材でできた遊具や木のおもちゃの提供とともに、季節の自然に合わせた展示を行い、楽しみながら森林や木に親んでもらえる運営を行った。SNSによる情報発信で知名度が向上したことで、平日でも予約が一杯になるほど利用者が増加した。
- ・ 令和7年1月より自然観察系のイベント実施の際は、イベント告知時にホームページで「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという「OneHealth」の考え方を紹介するとともに、イベント冒頭には「OneHealth」の概要説明を行い、参加者への普及啓発に努めた。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・ 「三重県民の森の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。
令和6年度請求件数:0件

⑤その他の業務				
・ 令和6年度における事故・事件は、6月に南駐車場における来園者の車両自損事故の1件のみとなった。				
(2)施設の利用状況				
公園施設全体の利用者数	成果目標	令和5年度実績	令和6年度実績	達成率
	133,000人	159,503人	164,547人	123.7%
顧客満足度	成果目標	令和5年度実績	令和6年度実績	達成率
① 施設利用者	80%	89.5%	91.0%	113.8%
② 自然体験型イベント参加者	92%	95.9%	97.0%	105.4%

2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所では利用料金を徴収している箇所はなし。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R5	R6		R5	R6
指定管理料	24,108,000	25,826,000	事業費	3,157,262	2,497,640
利用料金収入			管理費	21,925,269	24,819,258
その他の収入	1,281,360	1,589,328	その他の支出	0	0
合計 (a)	25,389,360	27,415,328	合計 (b)	25,082,531	27,316,898
収支差額 (a)-(b)	306,829	98,430			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	133,000人	80%	92%
成果目標に対する実績	164,547人	91.0%	97.0%

今後の取組方針

・施設利用者数について

令和5年度より約5千人増え、コロナ禍以前の水準に戻りつつある。森林公園として火気の使用や野営・炊さんの禁止などの制限がある中でも、初夏や秋の行楽シーズンには広場などでテントを張って遊ぶ多くの利用者の姿が見られ、屋外での活動のニーズが高いことがうかがえる。こうした状況の中で当公園が利用しやすくなる公園として引き続き選ばれるよう、適切な維持管理や環境美化に努めるとともに、新しい生活様式に則ったうえでの利用を促進していきたい。また「みえ森林教育ステーション」の利用者が当公園全体の施設利用者数の増加に寄与しており、「みえ森林教育ステーション」を含めてより広く広報を行っていく。

・施設利用者の満足度について

自然管理については満足度が高い。これは森林部分においては自生の植生を保護し、公園部分については植栽木を適切に管理するなど、良好な景観の維持に努めた結果だと考える。一方、施設管理については若干満足度が低い傾向が見られ、施設の老朽化などが影響していると考えられるため、今後も補修、改修を進めていきたい。

・イベントについて

コロナ禍以前のイベント実施回数を概ね維持し、多くの施設利用者に自然体験を楽しんでいただくことができた。自然体験については、観察会の依頼や参加者数の増加など、ニーズが高まっていると考えられるため、今後もさまざまな形で自然体験を提供していく。

4月から始まった「山猿塾」は今までとは全く違った観点から、子どもたち主体で遊びながら自然を勉強するという考えのもと行った。これは塾生である子どもはもちろん、その保護者にも好評で家庭内で会話が増えた等の声をいただいている。このシリーズは枠を広げながら続けていく。

また月1回の定例で行った「季節の自然観察会」や「星空観察会」は、毎月参加するリピーターもいるほど、定期的に公園を訪れるファン層を増やすことにつながっている。今後も引き続きこうした定例イベントを開催していく。

・自然環境について

園内の植栽木管理については、アスレチック周辺で頭上を覆う木々を伐採するなど適正な明るさを確保するとともに、森林管理については、外来の植物を間引くなど本来の自然植生を維持する森林管理を行った。今後も、減少の著しいトンボ類の復活のため、トンボ池の池干し等により、外来種の駆除を行うことで在来生物の増加に努め、希少植物のキンランやササユリ等のマーキング調査を実施するとともに、高校生が取り組む「フクロウの保護プロジェクト」に引き続き協力していくなど、希少な動植物の保護管理活動を継続していく。

・セルフガイドの充実

利用者が散策しながら自ら自然のことを学ぶセルフガイドシステムの効果的な運用に努める。季節で変化する公園の見所に合わせ、自然の美しさや面白さ、不思議さに気づききっかけとなるような内容とする。また、ウォークラリーの開催のほか、公園を楽しむツールとして、物品の貸出なども検討する。

・ボランティアについて

ボランティアグループである「モリメイト」では、自然観察グループを立ち上げたことで、自然観察の記録やボランティアガイドの実施など、活動の幅が広がった。親子連れや若者層など幅広い年代の方が新規加入することにより、活動が活性化された。今後も楽しみながら公園の管理につながる活動を行っていく。また、「モリメイト」で維持管理する「モリメイトの森」の区画を新たに設定し、管理を専門に行うボランティアの募集を行う。

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	B	A	年間施設利用者数は、令和5年度実績を上回り、目標を上回る 164,547 人(123.7%)となった。
3 成果目標及びその実績	B	A	施設利用者の満足度、自然体験型イベントの満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」の評価：
「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価：
「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>施設利用者数は令和5年度実績を約5千人上回り、コロナ禍以前の水準に戻った。今後は自然体験型イベントについて、開催数は現状を維持したうえで、新たなイベントを考えていきたい。また依然として野外で活動する傾向は高いと思われることから、自然や森林に親しめる場所として活用してもらえるよう取り組む。</p> <p>「みえ森林教育ステーション」については、SNS による情報の拡散により、より若い世代の親子連れの利用が多く、新しい公園利用の可能性があると考える。安全安心に利用してもらえるような運営に取り組むとともに、県民の森の魅力である広々とした森林など既存の施設と組み合わせることで、乳幼児から小・中・高学生まで効果的な森林教育や体験が可能なプログラムやキットの開発につなげ、将来の森林関係に携わる人材育成を行っていく。</p>
--------	---